

受賞者の業績



久保田 ミサホ氏 42歳(岩手県・主婦)

昭和42年から「乳児死亡ゼロ運動10か年計画」を展開している岩手県下で、45年から今日まで、11年余を軽米町の母子保健推進員として活躍。妊産婦乳幼児の巡回指導や状況把握あるいは未受診者への働きかけなど、積極的な活動を展開する一方、妊娠中の労働や食事について地域のよき相談者でもある。また、母子栄養改善運動では、母乳哺育の啓もう、普及に努め、食生活改善推進員としての活躍も大きい。母子保健推進員協議会副会長。



堀 芳子氏 46歳(山形県・保健婦)

山形県西村山郡朝日町、この一帯は山間へき地が多く、母子保健活動を推進するには、各地域の保健婦と母子保健推進員との綿密な連携が第一と考え、推進員の組織化を図る。一方、核化された家庭への若妻指導によって、母体を保護するという見地から家族計画推進員の組織活動を行い成果をあげた。また、婚前学級、孫さん学級、母親学級と各種の講座を開き、地域住民の知識、教養の向上のためにつくすなど、勤続28年の間に多大な業績を残している。



大沼雄子氏 46歳(宮城県・保健婦)

村田町では乳児は一人で部屋に放置され、お乳も十分に与えられていない状態の家庭が多かった昭和32年、育児指導の必要性を痛感し、乳幼児の実態把握と巡回相談事業を始める。以来24年余の間に、妊産婦の保健指導のために出張検診を実施。無介助の自宅分娩の解消のために母子健康センターの設置と指導体制の確立を図る一方、妊婦から幼児までの一貫性をもった母子管理指導票を作成するなど、仙南地方の母子保健の向上のために、たゆみない努力を続けている。

関 根 ほ の氏 47歳(埼玉県・保健婦)

地域の母子保健向上をめざすには、まず乳児死亡率を下げることを察知し、与野市を細分化して乳幼児健康相談の確立と展開を図ったのが、昭和36年4月。以来、健康診断、保健指導、家庭訪問と一貫した母子保健事業の確立のために努力してきた。また、巡回母親学級、保育所巡回指導などで、母親や保護者に、妊娠、出産、育児の正しい知識を普及する活動にもつとめ、健全な子どもの育成のためにつくしている。



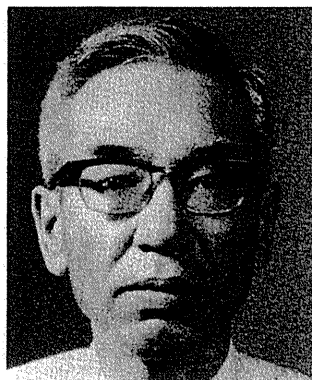
小 沢 百合子氏 40歳(山梨県・保健婦)

甲府市に隣接した白根町は、果樹栽培を主体とした農村で、愛育班活動の伝統に支えられた母子保健活動に熱心な地域である。この町で昭和44年から今日までの12年余、愛育組織の育成と班員による家庭訪問活動などを中心にして、地域住民とよく密着した母子保健活動に従事し、一方では各種の研修会や大会で講師として母子保健思想の啓もう普及のために、日夜努力を続けている。



諏 訪 城 三氏 47歳(神奈川県・小児科医)

先天性の疾患に対する予防、治療が重要な課題とされている今日において、県立こども医療センターで先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の早期発見のためのマススクリーニングに関する研究、先天性副腎皮質過形成症の疫学調査、治療法に関する研究など、各種の先天異常の研究を続け早期発見のための測定法を改良、実用化を図るなど、地域での先天性疾患に対する意識を高めて、受診効率向上の努力を重ねている。



川 口 貞 子氏 40歳(富山県・歯科医)

夫婦で開設している歯科医院で、昭和54年より小児予防歯科を標ぼう、熱心に地域社会の乳歯う蝕予防とその指導に当たっている。

個人診療では限界があることを痛感してからは、歯科医師会へ働きかけて、福野保健所を中心に、乳歯う蝕予防知識の浸透を図る地域活動へと展開、むし歯予防教室の設置や、フッ素塗布の実施とおやつ指導など、小児の歯の健康のために多彩な活動を続けている。





熊谷 豊一氏 46歳(岐阜県・産婦人科医)

産婦人科、内科、小児科、皮膚科の総合病院を開業するかたわら、可児町主催の妊婦学級に16年間継続して講師をつとめ、また乳児の各種健診にも、乳幼児学級、家庭学級の講師として積極的に参加し、講話や実習指導を通じて地域の母子保健向上のために、多大な努力を続けてきた。また、学校保健会の理事として、幼稚園、小学校、中学校、高校など各校など各校の校医をつとめながら、学校保健の推進、指導を通じて地域小児保健の振興に当たっている。



岩崎 濱子氏 48歳(愛知県・保健婦)

健康な市民の育成には、乳幼児期の健康管理と保健指導が、市町村の責任において推進されなければならないという信念のもとに、理事者の協力と理解に支えられて、国、県の施策に先だち、各種の母子保健事業の推進を、尾張旭市で22年間にわたって行い、瀬戸保健所管内の模範となっている。

これからは、母子保健に関する衛生教育の充実を図る一方、地域の問題点を加味した指導の実施を行いたいと、母子保健事業への情熱はつきない。



三木 幸子氏 47歳(滋賀県・助産婦)

昭和43年から大津市で開業助産婦になる前は、病院助産婦として10年余勤務、この道24年の大ベテランである。近年、核家族の増加などで、施設分娩が増える中で、嘱託医と連携して異常分娩の防止に努めながら、低所得層の妊産婦の便宜を図る一方、家族への配慮も加味した家庭的な出産という新しい試みも取り入れ、地域の人によるこばれている。また、地域母子保健事業に対する積極的な協力も惜しまない。



大滝 諛子氏 35歳(大阪府・看護婦)

四条畷保健所から遠隔地にある交野市は、交通不便な地域であるが、近年核家族の住民が増加し、人口増加に向かっている。このような地域で、保健衛生業務を一手に引受け、巡回赤ちゃん健康相談、母親教室、育児教室の開催、地区組織団体の育成強化などにフル回転の毎日を送っている。

9年余のキャリア、これからも各関係機関に働きかけて、新興都市の母子保健推進を希望する若いパワーの中心的存在。

徳 永 京 子氏 48歳(鳥取県・保健婦)

住民の5割が漁業に従事する賀露町の担当保健婦として5年余「やさしく強い情緒の育成」を目標にかかげた母子保健事業の展開のために、母乳推進活動に力を入れている。母乳の意義を説く講演、乳房マッサージなどをきめ細かく実施するほか、乳幼児の健康管理、妊産婦の健康増進活動にも力を入れ、地区住民や地域婦人会のよき指導者として、母子保健の推進につとめている。



仲 田 二三子氏 38歳(岡山県・保健婦)

山陽町に急激な人口増加が始まった昭和49年から、幼児の虫歯予防対策に協力、妊婦へのカルシウム剤無料配布、煮干粉普及などの消極的な対策を抜本的にねり直し、歯の衛生相談事業の開始、幼児の歯科検診、フッ素塗布、おやつ講習会など、幼児期の一貫した歯科対策を策定し、16年余にわたってその推進に当たってきた。また一方では、母親学級の育成、充実、母子保健推進員の育成など、地域母子保健の向上のために積極的にたずさわっている。



村 井 田 鶴子氏 48歳(長崎県・保健婦)

長崎市のベッドタウンとして人口増加が著しい時津町は、保健衛生行政の需要は年々増大している。ことに若年層の核家族に伴う母子保健事業が、町の重要施策になっているが、昭和48年から県下で最初の愛育班活動を行った時津町は、モデル町として着実な歩みを続けている。このような状況の中で16年余、町の変遷とともに母子保健推進の歩みを続け、最近では乳幼児の健康診査で発見された障害児のための学級を開催する活動にも力を入れて、トータルヘルスを目指している。



福 盛 久 子氏 40歳(沖縄県・保健婦)

無医地区やへき地の多い八重山群島において、昭和38年から今日まで17年余、母子保健を中心にした活動を続けてきた。小児科専門医のいない当地区で、毎年1週間の乳幼児健診の実施とその普及につとめ、疾病の早期発見のために努力している。また、昨年度より障害児の発達検診も試み、乳幼児の健康管理の効果をあげる一方、地域組織の育成、母子一貫管理体制の確立にも力を入れて、地域母子保健推進のかなめとして活躍を続けている。

